

未来へのストーリー

将来に向け今考える未来の話。これからの公共交通を考えるため、廿日市市では「廿日市市地域公共交通網形成計画」の策定を進めています。



軌跡をつなぐために

時代に応じた公共交通へ

廿日市市内を走るコミュニティバスやデマンドバスなどの自主運行バスは、人口などの変化や、新たな移動ニーズに対応しきれない状況にあります。現在、それらの利便性を高めるため、平成28年度から運用する「廿日市市地域公共交通網形成計画」の策定を進めています。計画ではまず、利用実態の把握のため、住民アンケート調査や沿線施設、事業者への聞き取りを行いました。また、この計画では、運行業者と連携を取り、路線の重なりやそれぞれの役割を見直すことを進めています。例えば、広電バスが持つ路線とコミュニティバスが重なっている区間。一体的なバス路線の再編によって、コミュニティバスから広電バスへの転換ができれば、転換先の交通手段の需要を押し上げ、本数などのサービス向上にも結びつきます。

そのほかにも、ICカードシステムやバスロケーションシステム、バスの路線マップなどの整備により、「乗り継ぎのわずらわしさ」や「現在の運行情報のわかりにくさ」の改善を目指します。

廿日市市の地形や人口・高齢化の状況、道路環境、施設の分布状況、公共交通の利用目的などは地域によってさまざま。計画では、移動サービスを提供する際にそれぞれの地域特性を考慮していきます。

普段の買い物など地域内の移動はコミュニティバスやデマンドバス、地域間の移動は幹線道路を走るバスや電車を利用する。また都市間での移動は広電バスのバス便や鉄道を活用してもらう。それぞれの役割を明らかにし、人が集まる場所や乗り換えなどの接続部分の拠点づくりに計画は活用されていきます。気軽に利用できる公共交通。この財産を未来へとつなぎ、残していくための取り組みがこれから始まります。

安心して住み続けられる場所へ

普段の生活の中で欠かすことのできない公共交通。廿日市市でも合併前からそれぞれの地域で地域の実情に合った交通手段を確保してきました。しかし合併後、年数が経つにつれ、地域の状況も変化していきました。

これからも同じ場所で安心して住み続けられる地域を目指し、廿日市市地域公共交通網形成計画の策定を行っています。5カ年にわたるこの計画を基に、実際の

事業などを組み立てていきます。

計画は来年の2月ごろ素案を公開し、市民の皆さんに意見募集を行います。これからの廿日市市のより良い公共交通のあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

高齢化や人口減少は避けて通ることのできない問題ですが、そういった時代の状況やニーズに合わせ利便性を引き上げていきたいと思えます。



都市・建築局
向井 敏美 局長

津田小学校への通学にバスを利用する松本莉奈(まつもと・りな)さん(左)、沖野楓(おきの・かえで)さん(右)。

住みやすい地域であり続けるための移動手段。「生活路線」を考えることは、直接の利用者のためだけではありません。学生や高齢者、教育や福祉の面で重要な役割を担う公共交通。通学・通勤や通院、普段の買い物など目的はさまざまですが、私たち一人一人の利用が住みやすい地域を、未来へとつなぐバトンとなっていくます。

